

緒川小の学びを卒業生はどう捉えているか

中京大学教授 久野弘幸

個性化教育の老舗・緒川小学校が再び脚光を浴びている。緒川小を 10 年前に卒業した元 “緒川っ子” は、小学校時代の学びをどのように振り返っているだろうか。緒川小学校が昨年発行した『自ら学ぶ子—個性化教育・緒川小学校の教育—』（2023）への拙稿から一部を紹介したい。

オープンタイムでの学びの手ごたえ

卒業生が緒川小学校での学びを振り返るとき、オープンタイムは強い印象を持って繰り返し思い起こされる活動のようである。

- ・「その時間が終わったら終わりじゃなくて、その先も、自分がやりたくなってやり続けた」
- ・「それだけやったからすごく達成感があったなと思って、すごく覚えている」

他者の活動に対する敬意や尊重がある

誰かの活動を笑ったり、自分の活動が笑われたりする関係でなく、安心できる人間関係の中で他者からの学びが生まれている。

- ・「（オープンタイムは）変わった内容をやったなと思うテーマだったけど、今考えると、あの時に誰も笑ったりしていないし、真剣に聞いてくれたというのは、周りの人もすごいなと思う」
- ・「個人でやっていることって、（他の人は）あんまり干渉しないし、（人からどう見られるかは関係なく）やりたいからやれる」

身につけた力は、今も生きている

卒業生は、オープンタイムを通して身につけた力についても語っている。

・「今思えば、調べる方法として人に聞くっていうことを身につけることができたのかなと思います。その方法を実際に今も続けています」

・「私は、手芸みたいなものだから、どういうふうによったら良いかを母親に相談したような気がする。これをやってミシンが得意になったというか、好きになって、今も服を作ったりする。その時にやったのが生きていて、今でもミシンで何かを作るのは好きです」

自分で調べて活動する楽しさを知っている

・「大学で卒論を書き始める時、テーマを決めて、自分で調べて、ゼミで自分が発表するときに『あつ、なんか今までにやったことあるな』って思った。すごく楽しいし、その楽しさを私は知っているってすごく思った。それが、オープンタイムだって気が付いた。

だから卒論は、大人になって本格的に行うオープンタイムだなという感じがする」

まとまった時間枠の中で自分の好きなことに集中・没頭することは、その時間を越えて生涯生きて働く時間になるのだと改めて気づかされる。個別最適の本質は、ここにある。

本会の会長、加藤幸次先生は、このたび 88 歳の米寿を迎えられ、2024 年 3 月 23 日「米寿をお祝いする会」が開かれました。

言うまでもなく、加藤先生は日本の個性化教育の第一人者であり、学校現場への指導に大きく貢献されてきました。加藤先生の長寿をお祝いし、これまでの、ご功績に感謝申し上げたいと存じます。

ここに、「米寿の会」での記念講演を、会員の皆様に紹介いたします。



ウィスコンシン大学に留学して学んだこと

日本個性化教育学会 会長 加藤幸次

年度末にもかかわらず、こんなに沢山の先生方にお集まりいただき、誠に光栄に思います。北海道と沖縄から、また、中国と台湾からもご参加いただき、誠にありがとうございます。1968 年から 4 年間、ウィスコンシン大学に留学して学んだことを中心にお話いたします。

(1) IGE プロジェクトから「指導の個別化」という概念を取り出した



ウィスコンシン大学
留学生歓迎会

1956 年、当時のソビエト連邦がスプートニクの打ち上げに成功し、西欧諸国はパニック状態になりました。アメリカは、1958 年、「国防教育法」を成立させ、対抗策に出ます。学校での教育内容の「近代化・高度化」策がよく知られているのですが、教育方法の改善策にも、莫大な資金が投じられました。

大規模な 3 つの「個別化教育プロジェクト」が策定され、ウィスコンシン大学では、IGE (Individually Guided Education) プロジェクトがスタートしました。その名の通り、特に、英語と数学の指導を個別化し、子ども一人ひとりの学習達成を確実にするというプロジェクトでした。原理的に「学年制」を廃止し、一人ひとりの到達度（達成度）に基礎を置いた「無学年制」プログラムで指導していくという

ものでした。すなわち、授業に参加していれば、毎年自動的に進級していくという「履修主義」ではなく、確実に到達度を高めていくことを目指した「修得主義」をベースに個別学習プログラムを提供し、教師たちはチームを組んで、一人ひとりを個別指導し、評価していく、というプロジェクトです。私は 1970 年から 2 年間、このプロジェクトから TA（研究助手）を得て、実験校の 1 つで、助手役をしていました。

(2) インフォーマル教育から「学習の個性化」という概念を取り出した



恩師 H. クリバード先生
ウイスコンシン大学での指導教
官、「カリキュラムの歴史」分野を
開拓された。

他方、戦後のイギリスでは、インフォーマル教育 (Informal Education) と言われた児童中心主義教育の実践が展開されていました。

1967 年、プラウデン・レポート (Plowden Report) がイギリスの教育省から公にされ、その全貌が世に知られるようになりました。いわゆる「壁の無い学校」と言われるように、学習空間が開かれていて、学習活動に応じて、柔軟に使われていました。なにより、マインドマッピング、あるいは、ウェビング手法を活用して、子どもたちが学習課題を自分

たちでつくっていたのです。このレポートが公にされると、アメリカから多くの教育者がイギリスの学校を訪問し、その成果を公にしました。それらを集約したのが、C. シルバーマンが編集した『教室の危機』(1973 年) でした。私が留学したウイスコンシン大学の教育学部は極めて進歩的なところで、私自身は連邦政府の推進する IGE プロジェクトの TA をしていたのですが、学生たちは街に出て、インフォーマル教育の流れを継いで、「オープンスクール/ニュースクール」を支援していました。バーモント、ニューヨーク、カルフォルニア、ミネソタ、ノース・ダコダなどの州で盛んに実践されていました。

(3) 10 の指導・学習プログラムとして、日本の学校に導入を試みてきた

帰国して、1977 年。日本のオープン・スクールにかかわるにあたり、まずは、教育内容・教育方法における“ヘゲモニー”の問題を取り上げ、次に、伝統的な一斉授業の持つ画一性にメスを入れました。画一性を克服するために、10 の“個別指導・学習プログラム”を作成し、「指導の個別化」と「学習の個性化」という2つのカテゴリーにまとめてみました。

言うまでもなく、前者はアメリカの IGE プロジェクトから学び、後者はイギリスのインフォーマル教育に学んで、かつ、日本の課題に答えようとした方策でした。

留学の意味するところは人により様々です。しかし、私の場合、留学はまさに私の研究と実践の確固たる基盤として機能してきたと考えます。大学や大学院で恩師を呼ぶにふさわしい優れた先生方にお会いできました。留学して、経験主義に与する先生方に大いに学ぶことができました。

日本での実践にあたって、教師として生きることを使命と感じている多くの先生方にお会いできました。振り返りますと、不思議にさえ思える偶然の連続であったように思います。(感謝！)

10 の指導学習プログラム	
1	補充指導
2	学力別指導
3	適性処遇指導
4	一人学習
5	二人学習
6	小グループ学習
7	発展課題学習
8	課題選択学習
9	自由課題学習
10	自由研究学習

↑ 出典 加藤幸次著
「学校 DX と『個に応じた
学習』の展開」より

2024 年度

日 本 個 性 化 教 育 学 会 組 織

(全国及び地方学会の理事・顧問は省略してあります)

全国個性化教育学会

(東京事務局)

会 長 加藤 幸次
副会長 高浦 勝義
事務局長 奈須 正裕
編集委員長 浅沼 茂
庶務部長 佐久間茂和
広報部長 中澤 米子
会計部長 五十子晴美
会計監査 松本 和平

東北個性化教育学会

会 長 吉村 敏之
副会長 猪股 亮文
事務局長 鈴木美佐緒
庶務部長 斎藤 浩平
庶務副部長伊藤 志保

東海個性化教育学会

会 長 庄子 亨
副会長 浅井 真司
副会長 鈴木 浩美
事務局長 竹内 秀雄
幹 事 種村 修一
幹 事 鈴木 佳代
幹 事 鬼頭 学

関西個性化教育学会

会 長 山本 克典
副会長 佐藤 真
事務局長 藤本 勇二
副事務局長 (会計補佐)
中西 徳久
会 計 岩崎 純子

九州個性化教育学会

会 長 川原 俊彦
副会長 木村 嘉身
事務局長 浦郷 淳
会 計 中村 玲子



◇研究会・①東北個性化教育学会 6月1日(土) 13:30～16:00 (参加費無料)
テーマ「子供を起点として学び合う教師集団」(詳細はホームページ参照)

②関西個性化教育学会 6月29日(土) 午後 武庫川女子大学学校教育館
第2回自由進捗学習セミナー (詳細は後日ホームページ発表)

※ 今後、実施される研究会・研修会は、順次ホームページにて紹介します。

日本個性化教育学会第17回全国大会 2024年8月3日・4日 オンライン詳細は別紙)
テーマ「個性化教育におけるDE&I(多様性・公正性・包摂性)の展開」

事務局への問い合わせ 庶務部長 佐久間茂和
〒362-0064 埼玉県上尾市小藪谷77-1 3-28-502
TEL 080-5429-1681
E-mail sakuma.shigekazu@jcom.zaq.ne.jp
日本個性化教育学会 HP <https://koseika.com>.

日本個性化教育学会 第43号

2024年5月19日発行

編集責任者 事務局長 奈須正裕

編 集 中澤 米子

